

湯の湖における釣魚実態調査 (2009 年度)

独立行政法人水産総合研究センター

中央水産研究所内水面研究部

1. 背景と目的

湯の湖は三ツ岳の火山活動により形成され、湖面積は 353,343m²、最大水深 14.5m の堰止湖である。サケ科魚類の放流は大正 5 年 (1916 年) のヒメマス放流が最も古い記録として残されており、以来マス釣りの場として多くの釣り人に親しまれている。現在、5 月から 9 月までが解禁期間とされており、釣魚の対象は主にヒメマス、ニジマス、ホンマス、カワマスである。この調査研究では、遊魚の場としての湯の湖の利用実態を把握し、それにより内水面における遊魚資源管理技術の開発に資することを目的とする。

2. 調査方法

解禁期間中の釣魚者へのアンケート調査 (図 1) により、湯の湖の釣魚実態を調査した。釣魚者には日時、釣魚時間、場所、魚種、釣獲尾数、体長、釣り方の情報を提供してもらい解析した。あわせて、釣魚者に満足度を 4 段階で自己評価 (満足、ほぼ満足、やや不満、不満) してもらい、釣魚者の意識についても検討した。

図 1. 釣魚者に配布したアンケート

湯ノ湖釣魚アンケート調査票

お名前: _____ (お名前ご住所は招待釣り券発送以外の目的には使用致しません。)

ご住所: 〒 _____

湯ノ湖では、マス類を増やすための試験研究を行っています。皆様のご協力が、明日のより良い漁獲づくりに必要です。下表に本日の釣果等をご記入ください。

釣魚月日	釣魚時間	本日の釣りはお楽しみいただけましたか? (O印)	釣獲魚	尾数	平均尾叉長*
月 日	開始 時 終了 時		(カットされたヒレ) 左側ヒレ _____ 尾 _____ cm 右側ヒレ _____ 尾 _____ cm 腹ヒレ+左腹ヒレ _____ 尾 _____ cm ニジマス _____ 尾 _____ cm なし _____ 尾 _____ cm ホンマス _____ 尾 _____ cm ニジマス _____ 尾 _____ cm カワマス _____ 尾 _____ cm ウグイ _____ 尾 _____ cm		
釣り方 (O印)		満足			
舟 人	岸	ほぼ満足			
フライ	ルアー	やや不満			
釣魚場所	下記の解禁区番号にO印をお願いします。		合計 _____ 尾		

本票回収場所:
釣り事務所
レストハウス
漁海上
赤沼茶屋

魚の左右は?
背骨から見て判断します。

左側 右側

体サイズ計測に右側の物差しをご活用ください。

*尾叉長

漁期終了後、抽選により100名様に来年の招待釣り券(1日券)を頒布します。当選者は以下ホームページで発表します。

中央水産研究所 内水面研究部 TEL 0288-55-0055
全国内水面漁業協同組合連合会 TEL 0288-62-2524 http://www.naisuimen.or.jp

3. 調査結果

3-1. 湯の湖の利用状況

2009年度の釣魚者は7,704人であり、昨年度(7,432人)をやや上回った。アンケートの回答率は平均23%であった(図2)。回答者1656人の内訳は岸釣り871人、船釣り769人、その両方16人であった。

湯の湖水面上に14の試験区域を設定し(図3)、区域ごとの利用者数を比較したものが図4である。区域2(約600人)が最も利用者が多く、ついで区域10(300人)の利用者が多いが、この傾向は昨年度と同様であった。岸釣りではアクセスや足場のよい区域2と区域10の利用率が高かったが、船釣りでは船着場に近い区域2の利用率が高かった以外は、とくに利用率に偏りは見られなかった(図5)。

図2. 釣魚者数とアンケートの回答率

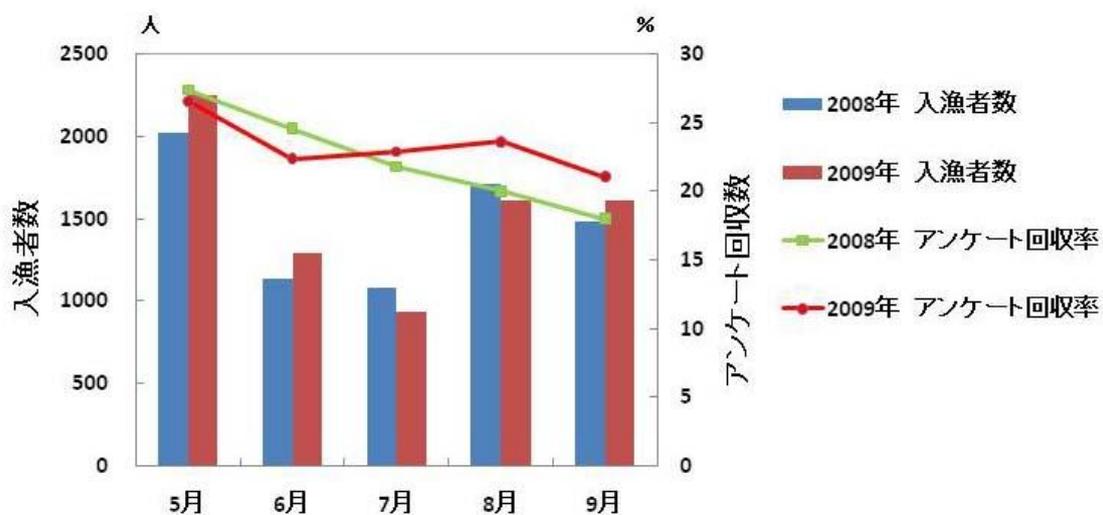


図 3. 湯の湖水面上に設定した試験区

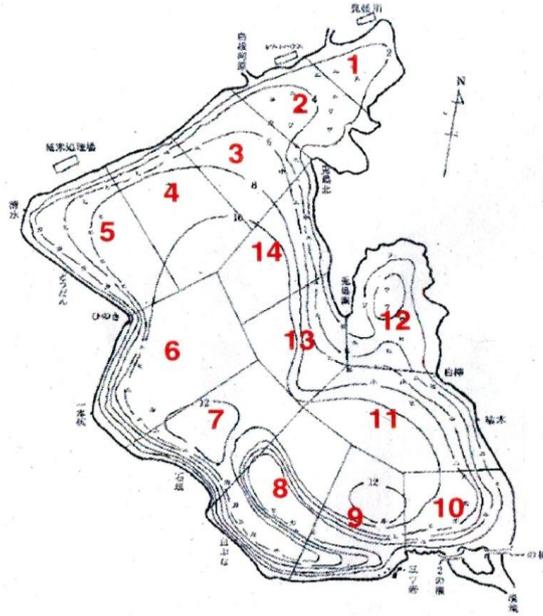


図 4. 区域ごとの利用者数

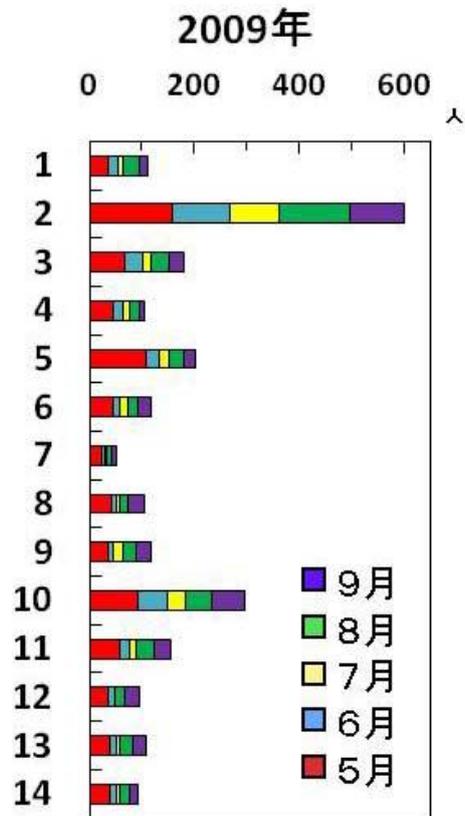
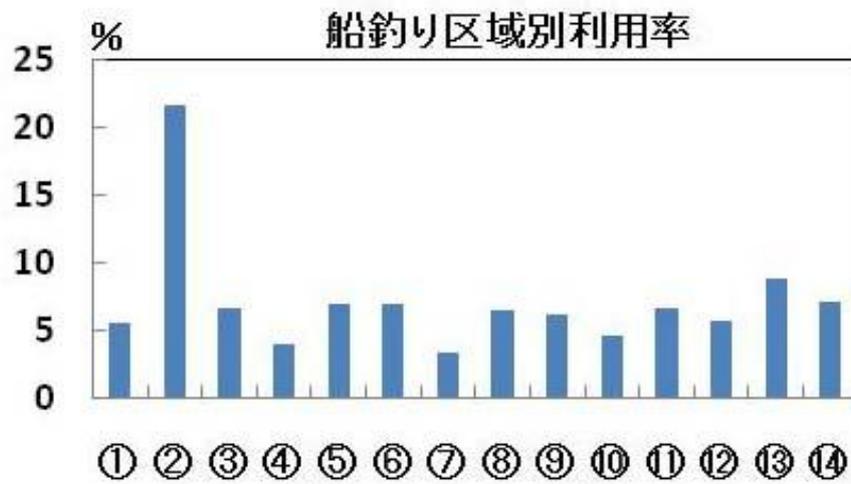
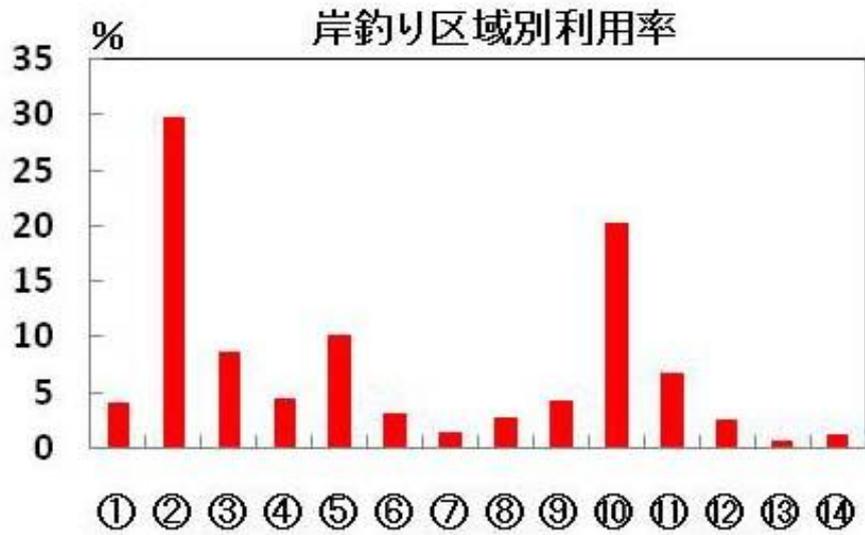


図 5. 岸釣り/船釣りにおける区域別利用率



3-2. 釣獲実態調査

2009年度の釣獲率（一人一時間あたりの釣獲尾数）を図6に示す。シーズン全体では釣獲率1以下の人の割合が68%を占めており、その傾向には月毎の差はなかった。釣獲率は平均で約0.9であった。

魚種別ではニジマスの釣獲が最も多かった。ヒメマスは解禁後の5月は一人一日2尾以上の釣獲であったが、以後低下し、代わりにニジマスの釣獲が増加し、9月には5尾以上となった（図7）。

釣り方では岸釣りではルアー釣り、船釣りではエサ釣りが最も多く、それぞれ50%および53%であった。釣獲率を比較すると、岸釣り・船釣りともルアーでの釣獲率が期間を通して低く、エサ釣りは岸釣りよりも船釣りの方が釣獲率は上回っていた（図8）。

図6. 解禁期間中の釣獲率

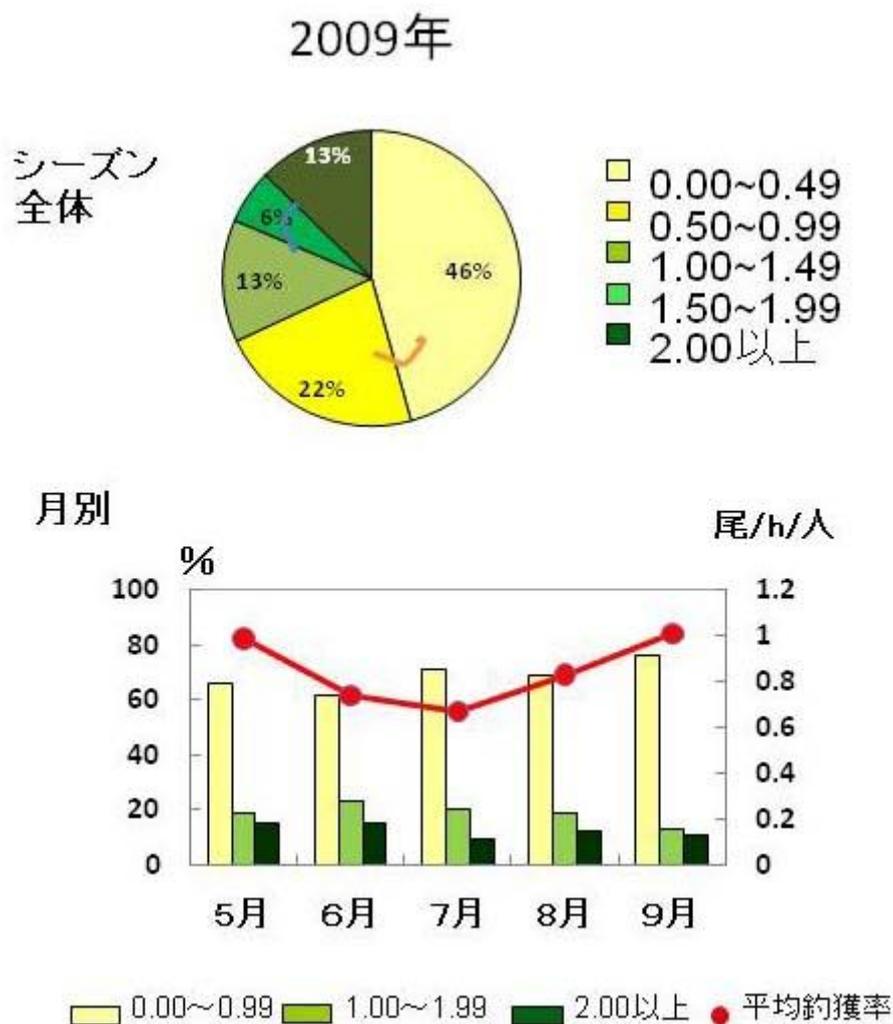


図7. 魚種別一人一日あたりの釣獲数

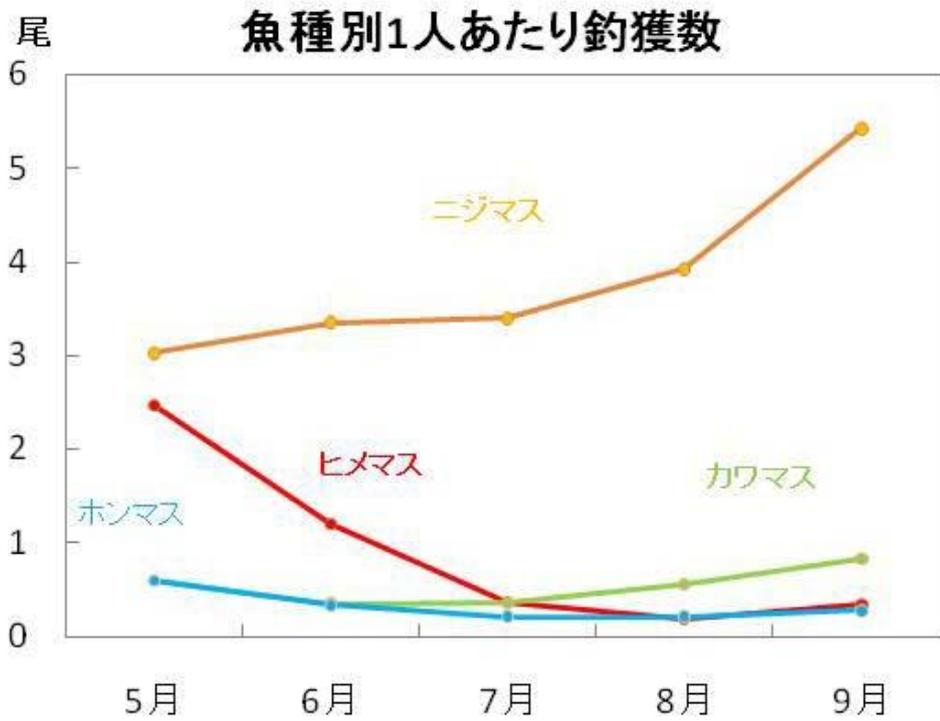


図8. 岸釣り・船釣りにおける釣り方

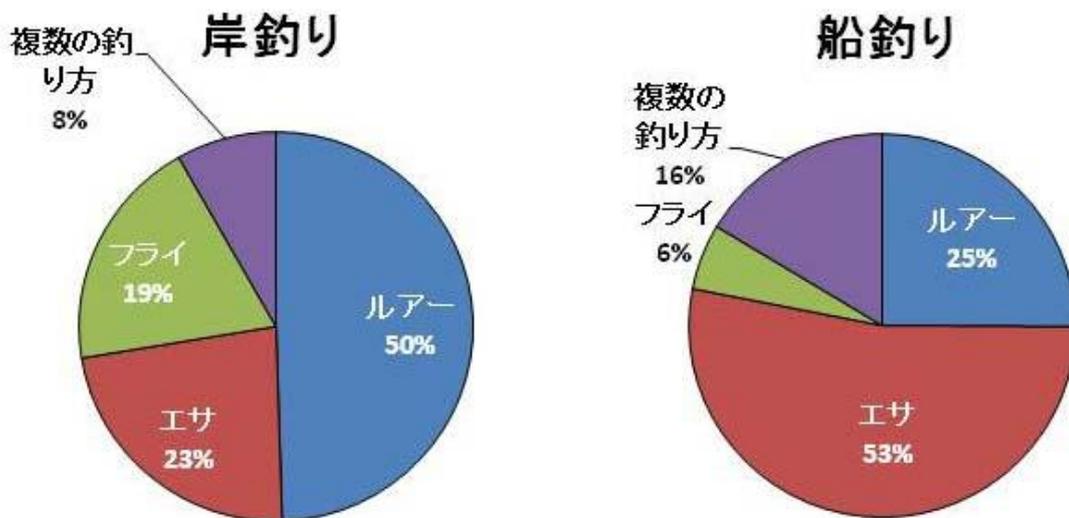
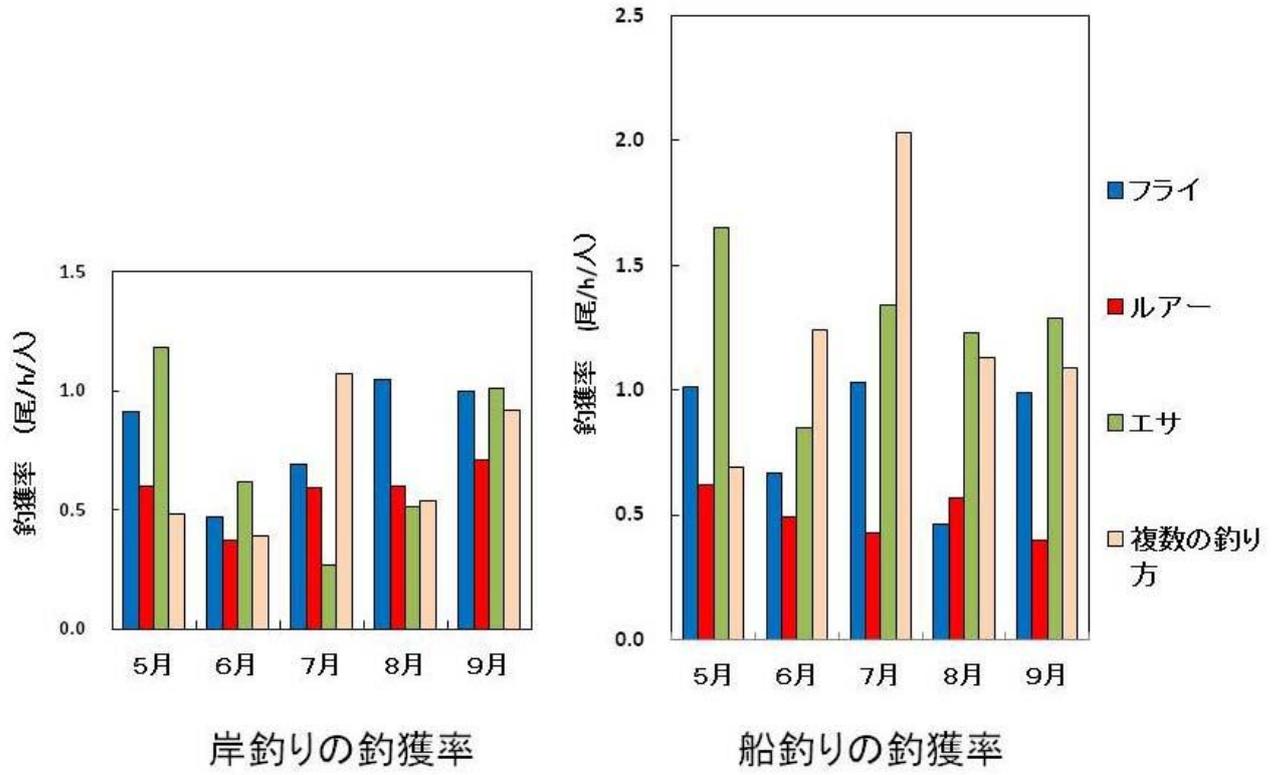


図9. 釣り方ごとの釣獲率



3-3. 釣魚者の意識調査

アンケート調査による釣魚者の満足度としては満足・ほぼ満足と回答した人が 55%であった。月別に比較してもおおむね 50%程度であった（図 10）。

満足・ほぼ満足と回答した人と、不満・やや不満と回答した人の釣獲率および釣獲尾数を比較したものが図 11 である。これによると、釣獲率 1 以上・一日 7 尾以上で満足と感じ、釣獲率 0.5 以下・一日 4 尾以下では釣魚者は不満に感じていると考えられる。

図 10. 2009 年度の入漁者の満足度

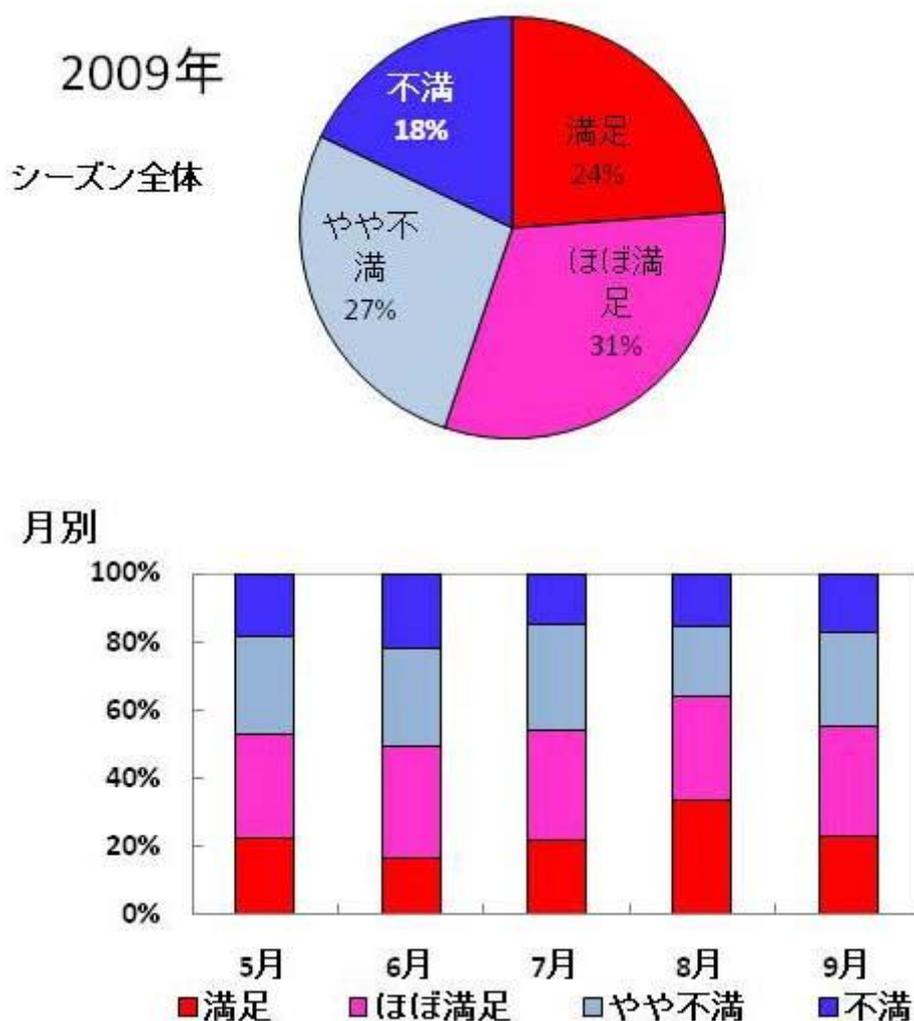
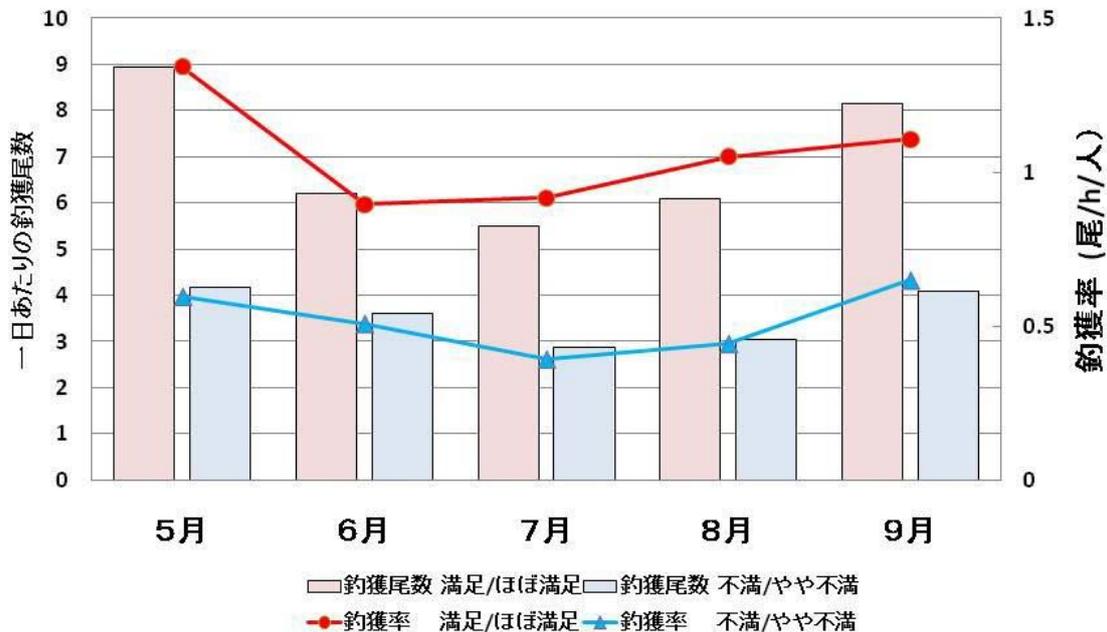


図 11. 満足度と釣獲率・釣獲尾数の関係



4. 考察

本年度はアンケート調査を中心に釣魚実態を検討した。例年どおり4月、7月および10月に釣獲調査も実施したが、十分な尾数が確保できず、解析には使用しなかった。また、水環境調査として水温・溶存酸素量もモニターしているが、昨年度と同傾向であり、大きな湖水環境の変化は起こっていないものと考えられる。

湖水面の利用度は区域2と区域10が高いが、これにはバス停・駐車場に近い、足場が良い、などの条件が影響していると思われる、こうした条件は遊魚環境整備の際に考慮すべきと考えられる。また、本年、釣魚者の満足度と釣獲率・釣獲尾数の関係についても考察したが、今後継続して調査を行い、信頼度を高めていけば、遊魚管理における一つの指針になることが期待される。

5. 付記

本報告書は平成20年度湯の湖・湯川調査研究推進会議における研究報告に基づき作成した。